

5万人に
ひとりの難病
「多発性外骨腫」

じょうね幹也が
そう診断されたのは
5歳のとき

軟骨が
神経を
刺激するので
痛がります

身長は
伸びないでしょう

じょうね幹也 ものがたり

根本的な
治療法は
ありませんから

その都度
手術をして
骨を削るしか…

なぜ
うちの幹也が
!?

悲しみの中
やがて両親は
決意する

この子を
立派な人間に
育てよう

ひとの痛み
に寄り添える
やさしい
人間に—

整列すれば
いつも一番前

いじめを
心配する声も
あったが…

一度も
それはなかった



彼が
心やさしく
誰より
努力していることを
皆が知っていた



高校三年の
手術を
最後に

健康な体を
手に入れた

その間
10回の
入院・手術



奨学金を
受けながら
京都大学・
京都大学法科大学院を
卒業

司法試験に
合格した

人を助け
支える
弁護士に
なるんだ

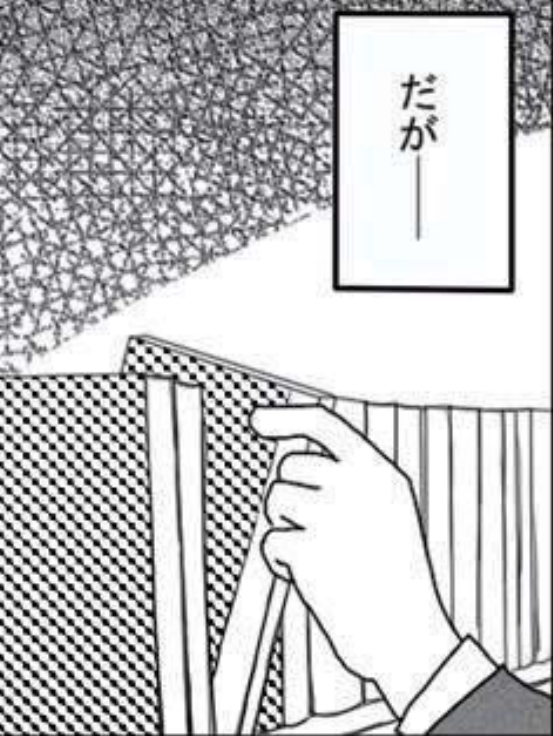
「彼ほど
やさしさと情熱
正義感を
兼ね備えた
見たことがない
弁護士を

じょうね幹也を
知る人は言う――

市民のために
全力を尽くす

2010年から
愛知総合法律事務所
小牧事務所の
所長に

愛知総合法律事務所



だが――



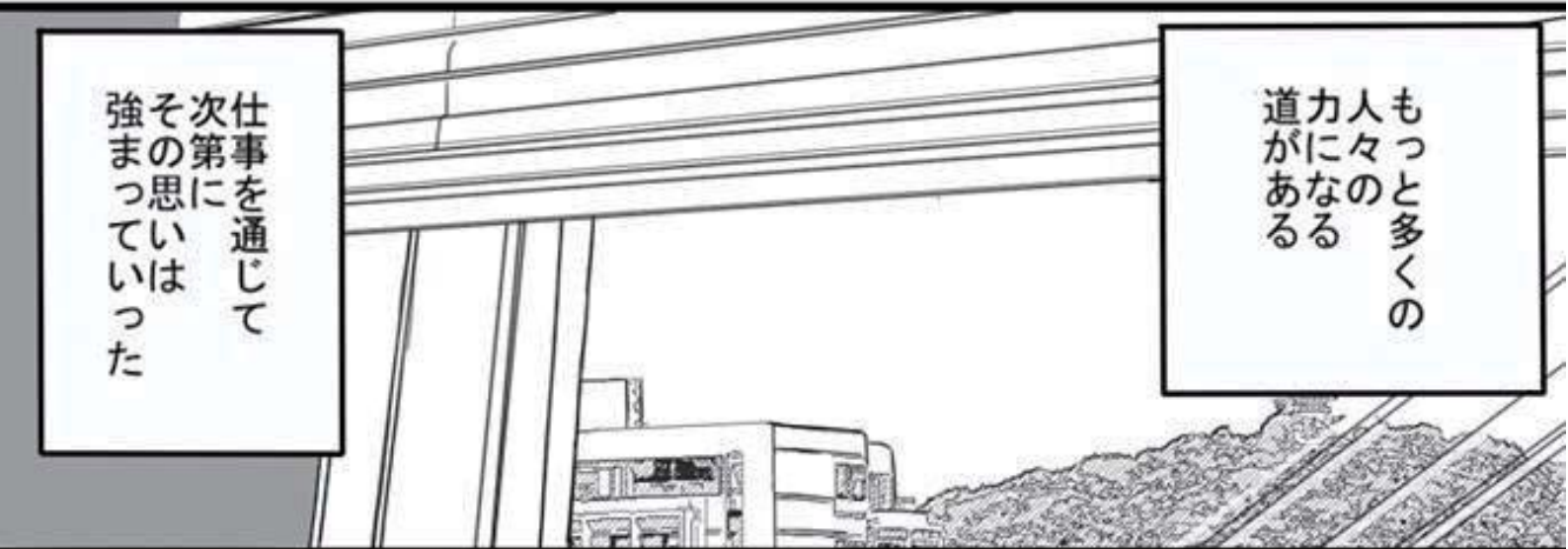
2011年に結婚
ふたりの娘を授かる

仕事は
順調だった



「病気」の根本は
別のところに
あるのでは……？

この仕事は
骨を削る
手術のようなもの



仕事を通じて
次第に
その思いは
強まっていった

もっと多くの
人々になる
道がある

2019年 じょうね幹也の新たな挑戦